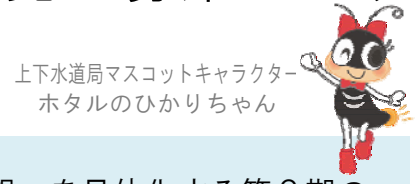


# 上下水道局の次期経営ビジョン骨子案

について市民の皆さまからの御意見を募集します



上下水道局マスコットキャラクター  
ホタルの澄都（すみと）くん



上下水道局マスコットキャラクター  
ホタルのひかりちゃん

本市では、平成11年12月に策定した「京都市基本構想」を具体化する第2期の基本計画として、平成23年度から10年間の都市経営の基本となる「はばたけ未来へ！京（みやこ）プラン（京都市基本計画）」を策定し、事業等を進めています。

こうした基本構想や計画の下、上下水道局では、水道事業及び公共下水道事業の経営戦略として「京（みやこ）の水ビジョン」を策定（平成19年）し、その前後期各5箇年の実施計画である「京都市上下水道事業中期経営プラン」により着実に事業を進めてきました。

一方、節水型社会の定着や人口減少により水需要が減少する（収入が減少する）とともに、管路や施設の老朽化が更に進む（必要となる事業費が増大する）など、**今後の経営環境は大変厳しい見通し**となっています。また、地震や大雨等の災害への備え、多様化するお客さまニーズへの対応や、これまでに培ってきた技術の継承など、事業を取り巻く課題を着実に解決していく必要があります。

このような状況にあっても、市民の皆さまとともに、生活を支える重要なライフラインである水道・下水道を**50年後、100年後の未来にしっかりとつなぎ、安全・安心を守り続ける**ために、平成30年度以降の基本理念や取組をまとめた次期経営ビジョンを策定します。

## <目次>

	1	次期経営ビジョンについて	1
	2	現在の「京（みやこ）の水ビジョン」の取組	2
	3	事業を取り巻く背景・課題	3
今後10年間の方向性と取組内容	4	基本理念と取組の構成	6
	5	取組の方向性	9
		視点① 京の水をみらいへつなぐ	9
		視点② 京の水でころろをはぐくむ	13
		視点③ 京の水をささえつづける	15
	6	実施計画の策定と継続的な改善	17
	7	今後の予定	17
	8	御意見の募集内容及び応募方法	18



# 1 次期経営ビジョンについて

## (1) 計画期間

平成 30 年度（2018 年度）から平成 39 年度（2027 年度）までの 10 年間とします。  
また、経営ビジョンの実施計画として、前後期各 5 箇年の中期経営プランを策定し、事業を推進します。


## (2) 計画の位置付け

次期経営ビジョンは、京都市基本構想を受けた部門別計画である京都市基本計画に対する政策分野ごとの計画（分野別計画）として位置付けます。また、中期経営プランとあわせて、本市の水道事業及び公共下水道事業の「経営戦略」とします。

京都市基本構想（グランドビジョン）  
21 世紀の京都のまちづくりの方針を理念的に示す長期構想  
<平成 13（2001）～平成 37（2025）年>

京都市基本計画  
基本構想の具体化のために全市の観点から取り組む主要な政策を示す計画  
「はばたけ未来へ！ 京（みやこ）プラン（京都市基本計画）」（第 2 期）  
<平成 23（2011）～平成 32（2020）年度>

基本計画の中で、水道・下水道の取組は「くらしの水」として位置付けられています。



## 水道事業及び公共下水道事業の分野別計画

H20  
(2008)

H30  
(2018)

H39  
(2027)

京（みやこ）の水ビジョン  
京都市上下水道事業 10 年ビジョン(2008-2017)



皆さまから御意見を  
頂き策定します

上下水道局の  
次期経営ビジョン  
(平成 30～39 年度)



## 2 現在の「京（みやこ）の水ビジョン」の取組

### （1）「京（みやこ）の水ビジョン」について

平成 20 年度からの 10 年間に取り組むべき課題や目標をまとめた「京（みやこ）の水ビジョン」では、「安全・安心」、「環境・暮らし」、「安定・維持向上」、「サービス」、「経営」のキーワードを基本とした 5 つの施策目標を掲げ、事業を計画的に進め、安全・安心で市民の皆さまに信頼されるサービスの提供に努めてきました。

### （2）「京（みやこ）の水ビジョン」における主な取組について

（丸囲みの数字は年度を表す。〈例〉 ⑲ → 平成 19 年度）

#### 【安全・安心】毎日安心して使うことができ、災害にも強い水道・下水道を目指します

- ・ 管路や施設の耐震化【水道主要管路の耐震適合性割合 37.7%→⑲予定 49.5%、下水道管路地震対策率⑲58.9%→⑲予定 88.4%】
- ・ 市内北部エリアの事業・防災拠点「太秦庁舎」の整備
- ・ 雨水幹線整備等の浸水対策を推進【雨水整備率(10年確率降雨) 15.1%→⑲予定 28.0%】
- ・ より安全・安心で良質な水道水を供給するための鉛製給水管の取替えを推進

#### 【環境・暮らし】環境への負荷の少ない水道・下水道を目指します

- ・ 水環境を保全するため、下水の高度処理<sup>※1</sup>や合流式下水道の改善<sup>※2</sup>を推進  
【高度処理人口普及率 45.9%→⑲予定 53.2%、合流式下水道改善率 25.2%→⑲予定 66.2%】
- ・ 市内北部地域の下水道整備完了
- ・ 大規模太陽光発電設備設置等の低炭素・循環型まちづくりへの貢献

#### 【安定・維持向上】将来にわたって使い続けられるよう水道・下水道の機能維持・向上に努めます

- ・ 山ノ内浄水場の廃止（4 浄水場体制から 3 浄水場体制へ移行）や吉祥院水環境保全センターの鳥羽水環境保全センターへの統合など、施設規模の適正化を実施
- ・ 水道配水管更新のスピードアップ（更新財源を確保するため、平成 25 年度に水道（9.6%）及び下水道（△3.0%）で 3.7%の料金・使用料改定を実施）【更新率⑲0.5%→⑲予定 1.2%】

#### 【サービス】皆さまの御要望におこたえし、信頼される事業を展開します

- ・ 営業所の抜本的再編（9 営業所から 5 営業所へ）を進める一方、区役所・支所における臨時相談窓口の設置等の積極的に行動するサービスを展開
- ・ 「利き水」などのイベントや、京の水飲みスポット（水飲み場）の設置、ミスト装置の普及等を通じて水道水の利用を促進

#### 【経営】経営基盤を強化し、将来にわたり安定した経営を行います

- ・ 施設規模の適正化や民間活力の導入による事業の効率化【職員定数⑲1,399 人→⑲予定 1,249 人】
- ・ 事業の効率化による経費の節減に加え、山ノ内浄水場の跡地をはじめとする保有資産の有効活用を推進し、財政基盤を強化【企業債残高 5,900 億円→⑲予定 4,669 億円】
- ・ 平成 29 年度から山間地域の上下水道事業を水道事業及び公共下水道事業に統合

※1 下水の高度処理 … 通常の処理では十分除去できない窒素やりんなどを除去する処理

※2 合流式下水道の改善 … 合流式下水道（汚水と雨水を同じ管で集める方式）では、大雨時に汚水の混じった雨水が河川等へ放流されますが、それを改善するため、貯留幹線の整備等を行っています。



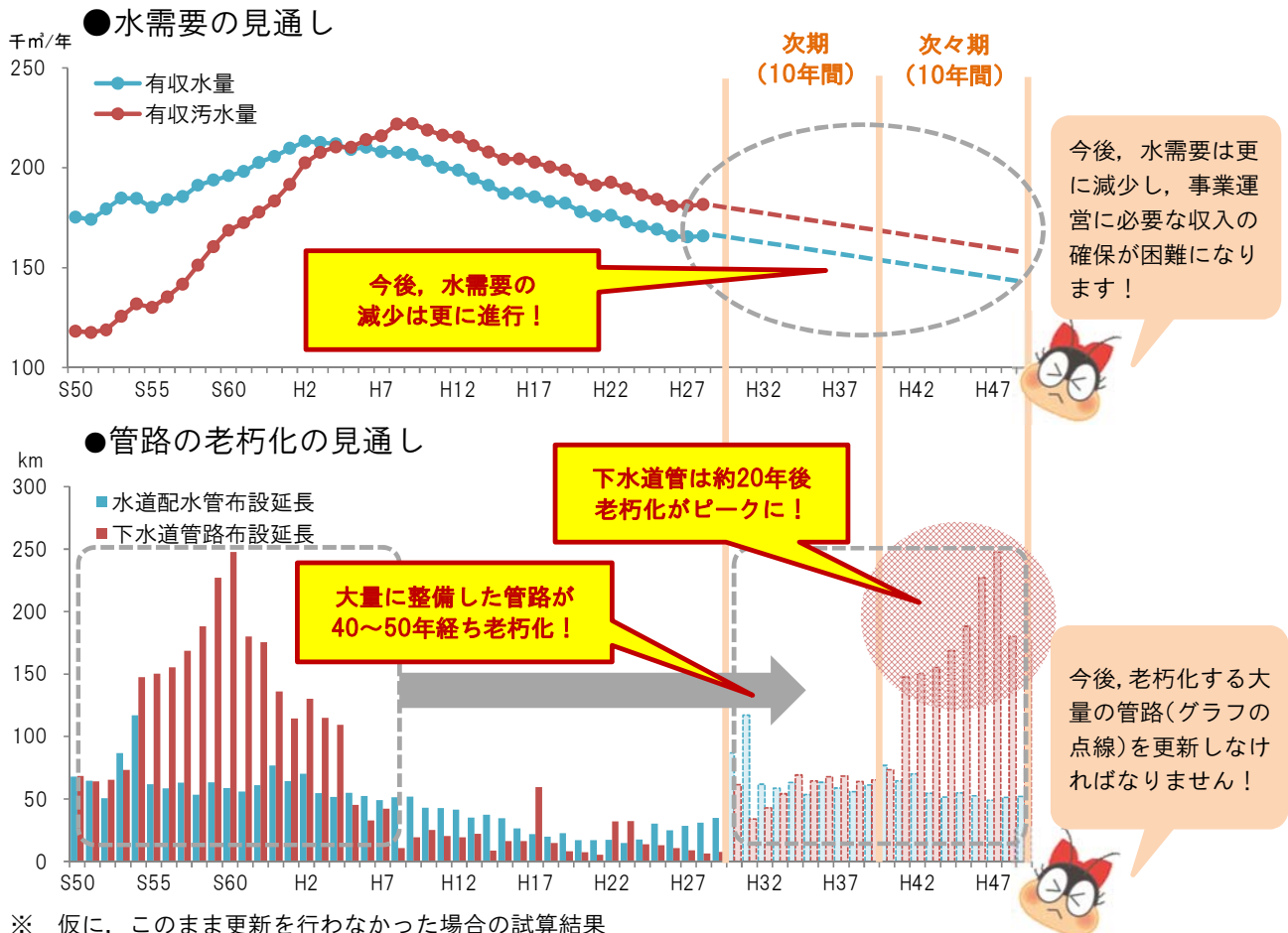
### 3 事業を取り巻く背景・課題

#### (1) 厳しさを増す経営環境（水需要の減少と管路や施設の老朽化）

節水型社会の定着により、本市の水需要は減少傾向が続いています（ピーク時と比較すると約 20%の減）。今後、人口減少により、水需要の減少が更に進み、事業運営のための貴重な財源である水道料金及び下水道使用料収入の確保が困難となることを見込まれ、公営企業として独立採算を基本とする水道事業及び公共下水道事業においては、大変大きな課題となっています。

また、管路や施設の老朽化も深刻な課題となっています。特に水道管路（配水管）については、平成 25 年度以降、更新のスピードアップを図るなど、着実に更新を進めているところですが、約 20 年後には、水道管路（配水管）の約 8 割、下水道管路の約 7 割が老朽化する（法定耐用年数を超える）見通し<sup>※</sup>です。皆さまに安心して水道・下水道を御利用いただくためには、老朽化した管路や施設の更新を着実に進めていく必要がありますが、これらの更新には莫大な事業費が必要となります。

このように、**事業を取り巻く経営環境は、収入が減少する一方で、必要な事業費（支出）が増大するという大変厳しい見通し**ですが、こうした状況にあっても、市民の皆さまの生活を支える重要なライフラインである水道・下水道を、50 年後、100 年後の未来にしっかりとつないでいくためには、施設の長寿命化や経営の効率化、新たな収入源の確保などを長期的な視点に立って着実に進めていかなければなりません。しかしながら、これらの取組を行ってもなお事業運営が困難となる場合には、水道料金や下水道使用料の改定についても検討する必要が生じます。





## (2) 大規模災害等を機に高まる防災・危機管理の重要性

東日本大震災や熊本地震では、大規模地震発生時に水道・下水道の機能喪失が社会に与える影響の大きさが再認識されました。本市においても、花折断層を震源とする大地震が発生すると予測されています。また、近年の台風や局地的な豪雨等を受けて、浸水被害を軽減するための対策の重要性が高まっています。

これらを踏まえ、水道・下水道の管路や施設の耐震化、雨水幹線の整備等のハード面での対策を進めることはもとより、防災訓練の実施や飲料水の備蓄等、市民の皆さまとともに取り組むソフト面での対策を含め、都市レジリエンス<sup>※</sup>の構築に向けて、これまで以上に防災・危機管理の取組を進めていく必要があります。

※ 災害や混乱等に耐え、可能な限り早急に復旧し、より強靱になることを目指す都市を「レジリエント・シティ」と呼び、アメリカの慈善事業団体であるロックフェラー財団により、平成 28 年 5 月、本市を含む世界 37 都市が選定されました。



東日本大震災による水道管の継ぎ手離脱



平成 26 年 8 月の大雨による浸水被害

## (3) 安全・安心な水道水の供給と水環境の保全

本市の水源である琵琶湖の水質は、国や滋賀県等の取組により、以前に比べ、安定した状況が保たれています。しかしながら、毎年のように植物プランクトンによるおおいの発生等が続いていることから、引き続き琵琶湖の水質の動向を注視しつつ、最適な浄水処理を行い、水質管理を徹底する必要があります。



琵琶湖（滋賀県）



鴨川（淀川水系）

また、本市は、琵琶湖・淀川水系の中流域に位置する大都市であり、市内河川の水環境はもとより、下流域に位置する都市の水道水源や、大阪湾、瀬戸内海の水環境を保全する上で重要な役割を担っています。その役割を果たすために、今後も、合流式下水道の改善対策を進めるとともに、下水の処理水質の維持・向上に努める必要があります。

## (4) 環境負荷の少ない低炭素・循環型まちづくりの実現

地球温暖化が世界的な喫緊の課題として認識される中、環境対策の重要性が高まっており、多くのエネルギーを消費する事業者として、低炭素・循環型まちづくりに向けて、積極的に貢献していく必要があります。「水に関する意識調査」（平成 27 年度）においても、約 90%の方から、環境保全活動について「力を入れる必要がある」との回答（具体的事項として「再生可能エネルギーの活用」が 56%で最多）を頂いています。

## (5) お客さま満足度の更なる向上

本市では、これまでの間、電話やファックス、インターネットによる給水申込受付を導入するなど、お客さまに負担をかけない、利用しやすい仕組みづくりを進めてきた結果、営業所に来所される機会は減少（平成19年度から約75%減）しています。一方で、水道・下水道の使用者数は増加傾向にあるほか、「水に関する意識調査」（平成27年度）では、お客さま対応の向上やインターネットを利用したサービスの充実に関する要望を頂いているなど、今後も、多様化するお客さまニーズへの確に対応していく必要があります。

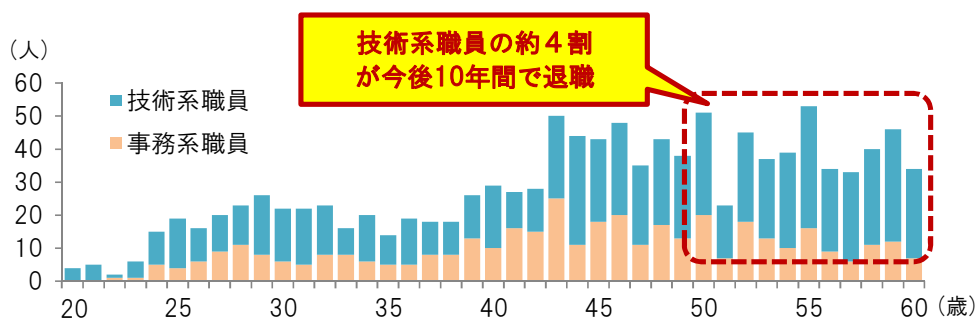
また、厳しい経営環境見通しの中にあっては、市民の皆さまに個々の事業の必要性や経営情報をわかりやすくお伝えし、御理解いただくための広報活動がより一層重要となります。同調査において、上下水道局の広報活動をよく知っていただいている方ほど水道事業及び公共下水道事業に対する満足度が高い結果が得られていることを踏まえ、今後も、「伝える力」を発揮して、積極的に広報・広聴活動を展開していく必要があります。

## (6) 職員の育成及び技術継承

上下水道局は、事業を担う職員の「職員力」を向上し続けるために、常に職員の育成を進めていく必要があります。

特に、技術系職員については、今後10年間に約4割が退職する見込みとなっており、水道事業及び公共下水道事業を支えてきた職員が有する熟練した技術力を、次世代にしっかりと伝えていくための技術継承が重要な課題となっています。

年齢ごとの職員数（平成29年7月時点）



## (7) 求められる役割の多様化

文化庁の京都への全面的移転方針など、文化・観光振興の気運が一層高まる中、本市では、「京都文化芸術都市創生計画」（第二期）を策定し、「世界の文化首都・京都」として、文化芸術を基軸に産業、まちづくり等のあらゆる分野と融合した多彩な取組を全庁的に展開しています。

また、近隣の事業体においても水需要の減少や施設の老朽化等の課題を抱える中で、府内唯一の政令市かつ最大規模の事業者として、本市上下水道局が果たす役割の重要性が高まっています。

これらを踏まえ、今後の本市の水道事業及び公共下水道事業には、市民の皆さまの生活を支える重要なライフラインである水道・下水道を守り続けることはもとより、幅広い視野を持って、多様な役割を果たすことが求められています。



## 4 基本理念と取組の構成

### (1) 基本理念

# 京の水からあすをつくる

明治の先人たちが、たえまない努力で築き上げた琵琶湖疏水から始まった本市の水道事業は 100 年以上、そして公共下水道事業は 80 年以上、市民の皆さまの生活を支え続けてきました。

本市の水道・下水道は、市民の皆さまの文化的・衛生的な生活を支えることはもとより、地震や大雨等の災害からまちとくらしを守り、大自然が営む健全な水循環の中で、琵琶湖・淀川水系の中流域に位置する大都市として下流域も含めた水環境を保全するなど、大変重要な役割を担っています。

今後、事業を取り巻く経営環境はますます厳しくなることが見込まれますが、このような状況においてこそ、水道・下水道の基本的な役割をしっかりと果たしつつ、長期的な視点かつ幅広い視野で目指す将来像を描き、その実現に向けて着実に取組を進める必要があります。

これらのことを踏まえ、本ビジョンでは、市民の皆さまの生活を支える重要なライフラインである水道・下水道を、50 年後、100 年後の将来にわたって守り続けられるよう、「京（みやこ）の水ビジョン」の基本理念である「京の水をあすへつなぐ」の考え方をしっかりと受け継ぎつつ、**市民の皆さまとともに、将来像の実現を目指す私たち上下水道局の決意を込めて、「京の水からあすをつくる」**を基本理念としました。

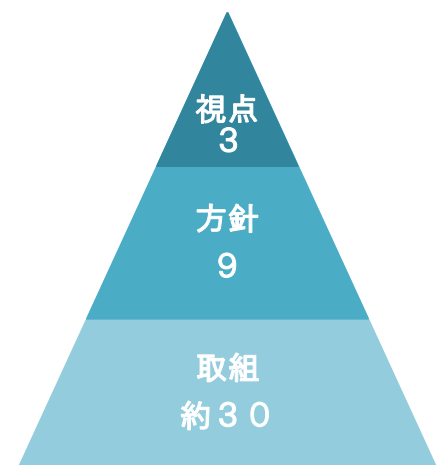
### (2) 取組の構成

次期経営ビジョンでは、基本理念「京の水からあすをつくる」に基づき、「京の水をみらいへつなぐ」、「京の水でこころをはぐくむ」、「京の水をささえつづける」の 3 つの「視点」を掲げます。

また、それぞれの視点には、本ビジョンの計画期間である 10 年間の更に先まで見据えた「目指す将来像」を掲げます。

そして、「目指す将来像」の実現のため、視点に対して 9 つの「方針」を掲げ、これらの下、約 30 の取組を体系的に構成します。

## 京の水からあすをつくる



### (3) 視点・方針

## (基本理念) 京の水からあすをつくる

### 視点① 京の水をみらいへつなぐ

私たち上下水道局は、安全・安心な水道水をつくり、下水をきれいにして川へ返すことはもとより、地震や大雨等の災害から、まちとくらしを守ります。そして、琵琶湖・淀川水系の中流域に位置する大都市として、下流域の水環境を保全するなど、水道・下水道の基本的な役割について、しっかりと責任を果たします。

さらに、新しい技術の導入や周辺事業者との連携の強化を図るなど、京の水を“みらいへつなぐ”ために、挑戦し続けます。

#### 目指す 将来像

- ・安全・安心な水道水をいつでも安定して利用できる
- ・衛生的な生活と良好な水環境がいつまでも守られている
- ・大規模地震が起こっても、水道・下水道を利用できる
- ・大雨が降っても、浸水から生命・財産が守られている
- ・周辺地域や海外を含め、広い視野で事業が運営されている

### 視点② 京の水でこころをはぐくむ

私たち上下水道局は、水道・下水道に関する情報を市民の皆さまに分かりやすく伝え、皆さまの声を受け止め、ニーズに対応したサービスを提供し、期待に応え続けることはもとより、京都ならではの「こころの創生」を重視し、文化や景観、そして地球環境に配慮した“こころをはぐくむ”事業運営に努めます。

#### 目指す 将来像

- ・一人一人のお客さまが安心して水道・下水道サービスを受けられる
- ・京の水を支える琵琶湖疏水の魅力がいつまでも継承され、文化や景観と融合した京都ならではの事業が展開されている
- ・地球環境への負荷を最小限に抑え、事業が運営されている

### 視点③ 京の水をささえつづける

私たち上下水道局は、市民の皆さま、そして水道・下水道に携わる事業者の皆さまとともに、50年後、100年後の将来にわたって“京の水をささえつづける”ため、これまで培ってきた技術を確実に次世代へと継承しつつ、長期的な視点に立ち、安定した経営を行います。

#### 目指す 将来像

- ・上下水道局の職員、市民や事業者の皆さまが一体となり、京の水道・下水道が守り続けられている
- ・世代間の負担の公平性が保たれており、健全な財務体質により事業が運営されている



方針① つくる

琵琶湖から蛇口までの水質管理を徹底し、安全・安心な水道水をつくります

方針② はこぶ

老朽化した管路の更新と耐震化を進め、水道水を安定してお届けし、下水を確実に集めます

方針③ きれいにする

下水をきれいにして川へ返し、市内河川や下流域の水環境を保全します

方針④ まもる

市民の皆さまとともに、地震や大雨などの災害から、まちとくらしを守ります

方針⑤ いどむ

新しい技術を取り入れながら、周辺地域や海外を含めた広い視野で、未来に向けた挑戦を続けます

方針① こたえる

分かりやすく伝え、しっかりと声を受け止め、市民の皆さまの期待に応え続けます

方針② ゆたかにする

琵琶湖疏水の魅力を高め、地球環境にやさしい事業運営により、まちやこころをゆたかにします

方針① になう

これまで培ってきた技術をしっかりと継承し、京の水の担い手を育て、きずなを強めます

方針② ささえる

50年後、100年後を見据えた経営を行い、将来にわたって京の水を支え続けます



## 5 取組の方向性

# 視点① 京の水をみらいへつなぐ（1）

### 方針① つくる

琵琶湖から蛇口までの水質管理を徹底し、安全・安心な水道水をつくります

#### 取組①

水源（琵琶湖）から蛇口までの水質管理を徹底し、水道水の安全・安心を守り続けます。



電子顕微鏡による水質検査

- ・ 水質監視装置の更新・拡充による水質監視の強化
- ・ 原水の動向や給水への影響が危惧される化学物質の調査を実施
- ・ 水安全計画の継続的な運用（危害原因事象の分析・評価，危害の未然防止，危害発生時には迅速・的確な対応）

#### 取組②

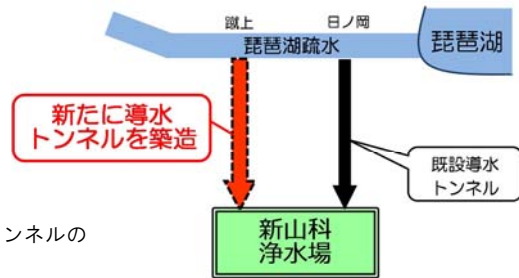
日々変わる原水の状態を見極め、最適な浄水処理を行うとともに、適切な施設の維持管理と運転管理を行います。

- ・ 従来よりも臭気（におい）を除去する能力に優れた高機能な粉末活性炭の活用など，浄水処理機能の充実とともに，高度浄水処理 施設の導入についても検討を継続
- ・ 施設機能を保持するために，施設の順位付けを行い，効果的・効率的な改築更新，維持管理を実施

#### 取組③

地震等災害時においても、安定して水道水をつくり続けるために、**基幹施設の改築更新・耐震化**を実施します。

- ・ 建設から約 50 年が経過した新山科浄水場導水トンネルの更新
- ・ 配水池等の基幹施設について，将来の施設規模を考慮した改築更新・耐震化



新山科浄水場導水トンネルの改築更新イメージ

### 方針② はこぶ

老朽化した管路の更新と耐震化を進め、水道水を安定してお届けし、下水を確実に集めます

#### 取組①

安全・安心な水道水を安定的に供給するため、**配水管等の漏水調査や修繕作業など維持管理**を適切に行います。

- ・ 計画的な漏水調査や漏水修繕の実施
- ・ 漏水やにごり水が発生した場合でも，迅速に対応するため，緊急体制を強化



漏水等に伴いにごり水が発生した場合の洗管作業の様子

※ 高度浄水処理 … 通常では除去が困難な臭気物質等を取り除くための処理

## 取組②

ライフサイクルコスト<sup>※1</sup>の縮減と更新事業費の平準化を図りながら、**老朽化した配水管の更新にあわせて耐震化**を推進します。



配水管の更新（耐震化）の様子

- ・ 配水管の更新・耐震化の推進（平成 32 年度以降，更新率 1.5%を目指します。）
- ・ 大規模災害による断水発生を最小限に留めるために連絡幹線配水管を整備
- ・ 将来の水需要を見据えた配水管の口径の最適化など，配水管網の再構築

## 取組③

蛇口から安全な水道水をお届けするために，適切な指導・助言を引き続き実施し，**給水サービスの向上**を図ります。

- ・ 指定給水装置工事事業者への適切な指導
- ・ 受水槽の適正な維持管理の啓発と直結式給水の勧奨

## 取組④

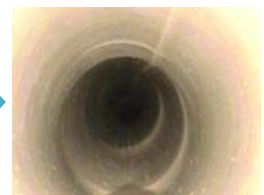
日常的な巡視，点検，調査等，**予防保全<sup>※2</sup>を重視した維持管理**により，下水道管を大切に長く使い続けます。

- ・ 予防保全と事後保全<sup>3</sup>を適切に組み合わせた維持管理を実施
- ・ 優先的に点検・調査を行う下水道管を選定し，効果的・効率的な維持管理を実施

## 取組⑤

**優先度を踏まえた下水道管の改築及び耐震化**を実施することにより，老朽化や地震に伴うリスクを効率的に抑えます。

- ・ 布設年度が古く，破損等のリスクが高い管路を対象に，布設替えや管更生による長寿命化，更新を実施
- ・ 緊急輸送路に布設された管路や避難所の排水を受ける管路等，地震時においても社会・経済活動や市民生活を維持する上で重要な管路の耐震化を実施



既設下水道管を使用した更生（長寿命化）  
（古くなった管の内側に新しい管となる素材を入れる）

## 取組⑥

**適切に下水道をお使いいただく**ため，お客さまへの啓発や勧奨を，引き続き実施します。

- ・ 未水洗家屋の解消に向け，水洗便所の設置に係る助成金制度を活用し，水洗化の勧奨を推進
- ・ 届出指導，立入検査及び水質検査による工場・事業場排水の監視及び指導

※1 ライフサイクルコスト … 施設における新規整備・維持修繕・改築・処分を含めた生涯費用

※2 予防保全 …不具合が発生する前に対策を行う管理手法 ※3 事後保全 …不具合が発生してから対策を行う管理手法



## 5 取組の方向性

# 視点① 京の水をみらいへつなぐ（2）

### 方針③ きれいにする

下水をきれいにして川へ返し、市内河川や下流域の水環境を保全します

#### 取組①

予防保全を重視した施設の維持管理に取り組むとともに、**下水の高度処理や適切な水質管理**により、琵琶湖・淀川水系の水環境を守り続けます。



- ・ 水環境保全センターの主要施設について、点検整備計画に基づく定期整備の実施
- ・ 処理水質の維持・向上に向けた、水質管理計画に基づく水質管理の実施
- ・ 下水の高度処理の実施や、効果的・効率的な運転管理の調査・研究の実施

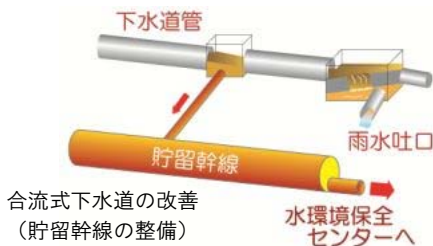
#### 取組②

健全度や重要度を踏まえた**効率的な改築及び耐震化**を進めるとともに、**施設規模の適正化**に向けた取組を実施します。

- ・ 健全度や重要度に応じた優先順位を設定し、長寿命化や更新を計画的に実施
- ・ 地震時においても維持すべき重要な機能を有する施設について、優先的に耐震化を実施
- ・ 鳥羽水環境保全センター吉祥院支所の処理機能の縮小に向けて、吉祥院支所に流入する汚水を鳥羽水環境保全センターへ切り替えるための施設整備を段階的に実施（施設規模の適正化）

#### 取組③

市内河川や下流域の水環境を保全するため、**合流式下水道の改善対策を着実に実施**します。



合流式下水道の改善  
(貯留幹線の整備)

- ・ 大雨時に河川に流出する汚水の混じった雨水を削減するため、貯留幹線を整備
- ・ 既存の施設を効果的に運用し、雨天時における河川への放流水質をより一層改善
- ・ 平成 35 年度までに合流式下水道の改善対策を完了

### 方針④ まもる

市民の皆さまとともに、地震や大雨などの災害から、まちとくらしを守ります

#### 取組①

危機事象に対応するため、上下水道局として危機管理の在り方を構築し、**災害に強い施設整備や体制の強化**を進めます。

- ・ 市内南北 2 エリアを所管する事業・防災拠点の整備推進により、機動的な危機管理体制を構築  
(市内北部エリアの拠点は平成 29 年 7 月に開庁した「太秦庁舎」)
- ・ 管路や施設の耐震化に加え、災害発生時に確実に飲料水を供給できる施設や災害用マンホールトイレの整備を継続して実施

マンホールトイレ（イメージ）





## 取組②

市民の皆さまが自らの安全を守るための「自助」の意識を啓発するとともに、地域や企業などで助け合う「共助」を支援し、災害対応力の強化を図ります。

- ・ 市民の皆さまや他都市と連携した実践的な防災訓練の実施
- ・ 市民の皆さまの防災意識を向上させるため、仮設給水栓の配備状況を積極的に広報するなど、災害対策に係る取組の周知を実施
- ・ 飲料水の備蓄率の向上に向けた取組を実施



応急給水訓練の様子

## 取組③

雨水幹線等の整備をはじめ、市民・事業者の皆さまとも連携した浸水対策を進めることによって、**雨に強いまちづくりを進めます。**



雨水幹線（施工中）の内部の様子

- ・ 市内中心部の浸水安全度を更に向上させるとともに、既存幹線の改築時や非常時のバイパス機能を確保するために、新たな基幹幹線（鳥羽第3導水きょ）を整備
- ・ 過去に浸水した地域や浸水の危険性が高い地域に雨水幹線や雨水の取込施設等を整備
- ・ 助成金制度を活用しながら、市民・事業者の皆さまに対して雨水貯留施設等の普及を促進

## 方針⑤ いども

**新しい技術を取り入れながら、周辺地域や海外を含めた広い視野で、未来に向けた挑戦を続けます**

### 取組①

あらゆる業界や研究機関と連携し、**ICT等の未来へつなげる技術の調査・研究**を進めます。

- ・ 新たな浄水処理・下水処理技術や下水道資源の有効活用、水道スマートメーターをはじめ、人工知能（AI）を含めたICT（情報通信技術）の活用に係る調査・研究を実施
- ・ 民間企業や大学等の外部機関との共同研究の実施、研究成果等の外部への発信

### 取組②

京都府内最大規模の事業者として、**広域化・広域連携に係るリーダーシップを発揮**し、検討を先導します。

- ・ 府内各事業者との情報交換や技術支援（業務の共同化や本市研修施設の活用等）を充実
- ・ 府下市町村が一体となった危機管理体制の検討
- ・ 近隣事業者を含めた施設規模の適正化の調査・研究
- ・ 流域関係者とのパートナーシップによる琵琶湖・淀川流域全体の水環境を保全

### 取組③

本市が持つ水道・下水道に係るノウハウや技術力を生かし、**世界の水道・下水道の発展に貢献**します。

- ・ 海外研修生の受け入れ及び本市職員の現地への派遣





## 5 取組の方向性

# 視点② 京の水でこころをはぐくむ

### 方針① こたえる

分かりやすく伝え、しっかりと声を受け止め、市民の皆さまの期待に応え続けます

#### 取組①

営業所を東西南北の4箇所体制とし、**地域における総合窓口・情報発信拠点**としてサービスから危機管理に至る幅広い役割を果たします。

- ・ 市内東西南北の4営業所体制の構築（現在、東部・北部・西部・左京・南部の5営業所。今後、北部と左京を統合）
- ・ 営業所を、新たな機能（水道・下水道に係る各種制度・施策を営業所が積極的に推進）や役割（上下水道局の防災・危機管理体制における地域の特性を踏まえた防災拠点）を担う組織として再構築



お客さま窓口サービスコーナー

#### 取組②

**積極的なマーケティングリサーチ**により、お客さまニーズをこれまで以上に確かかつ詳細に把握・分析し、新たなサービスの実現につなげます。

- ・ 大口使用者や地下水等利用専用水道使用者への訪問の実施
- ・ 増加している集合住宅のお客さまニーズの把握・分析に基づく新たなサービスの検討
- ・ 水道・下水道に関するお客さま情報の一元化を図り、きめ細やかなサービスを実施

#### 取組③

**ICT/IoT\***を活用したサービスを充実し、将来のお客さまサービスの在り方についても研究を重ねます。

- ・ インターネットを利用した手続の拡充や、水道使用水量等を閲覧できるサービスの開始
- ・ 新しい視点でのサービスの実現に向けた検討

#### 取組④

**戦略的な広報・広聴活動を展開**し、市民の皆さまの事業への理解・関心を高め、ひいては事業に対する満足度の更なる向上を目指します。

- ・ 「水に関する意識調査」や各事業でのアンケート結果などを基に、対象や媒体（手段）、内容を効果的に組み合わせた体系的な広報・広聴戦略を構築
- ・ 次代を担う子ども達や、「水に関する意識調査」において事業に対する満足度が比較的低い子育て世代を対象とした広報活動を重点的に展開
- ・ 産学公連携による、市民協働の観点を取り入れた参加型・体験型の広報活動を展開
- ・ 「水に関する意識調査」、上下水道モニターなど様々な手法による広聴活動を実施



水道水と市販のミネラルウォーターを飲み比べる「利（き）き水」



子ども向け水道水PRプログラム「わくわく すいどうひろば」



「京（みやこ）の駅ミスト」（京都駅前バスのりば）

※ IoT … モノ（物）のインターネット。コンピューターなどの情報通信機器以外の様々なモノ（物）がインターネットに接続され、相互に情報をやりとりすること。

## 方針② ゆたかにする

琵琶湖疏水の魅力を高め、地球環境にやさしい事業運営により、まちやこころをゆたかにします

### 取組①

「世界の文化首都・京都」として、京都における産業の近代化の歩みを物語る琵琶湖疏水の魅力発信を進め、**文化や景観、観光振興に貢献**します。

- ・ 「琵琶湖疏水」の保存と維持管理（石積補修，疏水路全般の管理及び整備）
- ・ 平成 30 年度から本格事業化する通船事業について，疏水路の施設管理者として運営を支援し，疏水建設の意義や魅力を発信
- ・ 疏水沿線に点在する史跡や近代化産業遺産（蹴上インクライン，蹴上浄水場等），旧御所水道ポンプ室の有効活用
- ・ 「明治 150 年」の取組として，本市の水道事業の礎を築いた先人の偉業を広く発信するため，琵琶湖疏水記念館を開館 30 周年（平成 31 年）に合わせてリニューアル



琵琶湖疏水通船復活試行事業  
（四ノ宮船溜付近（山科区））



蹴上浄水場第 1 高区配水池  
（外観を保存する工法による改築更新の様子）



琵琶湖疏水記念館

### 取組②

京都議定書誕生の地として，創エネルギーや，省エネルギーの取組を実践することにより，**持続可能な低炭素社会の実現に貢献**します。

- ・ 太陽光発電や小水力発電等の創エネルギーの取組を継続実施
- ・ 省エネルギー・高効率機器の導入や効率的な運転管理による消費エネルギーの削減
- ・ 環境にやさしい取組とその効果を，市民の皆さまに広く知っていただくため「環境報告書」を毎年度作成

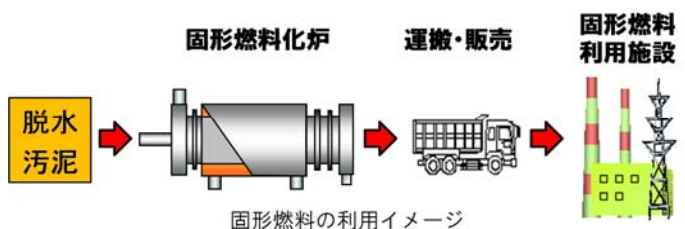


大規模太陽光発電設備（鳥羽水環境保全センター）

### 取組③

下水道資源の更なる有効活用を進め，**地球環境にやさしい循環型まちづくりに貢献**します。

- ・ 現在は焼却して埋立処分している下水汚泥を固形燃料化するための施設を整備（生成した固形燃料をエネルギー資源として火力発電所等で燃料の一部として有効活用）
- ・ 再整備した汚泥消化タンクにより，消化ガス発生量を倍増させ，都市ガスの代替燃料として有効活用
- ・ 脱水汚泥，焼却灰のセメント原料化を継続実施







## 5 取組の方向性

# 視点③ 京の水をささえつづける

### 方針① になう

これまで培ってきた技術をしっかりと継承し、京の水の担い手を育て、きずなを強めます

#### 取組①

あるべき職員像を掲げ、**技術力や伝える力の向上**などに取り組み、事業を支え続ける職員を育成します。

- ・ 技術力向上・技術継承に係る取組の実施（体験型研修施設を活用した危機管理能力向上のための研修など）
- ・ 「聴く力」・「受け止める力」・「伝える力」向上のための研修や職場の業務に応じたお客さま対応力向上のための研修を充実
- ・ 職員の面談等を通じたキャリアプランの形成、実践や、国、他都市、民間企業等への派遣、人事交流の実施



体験型研修施設（水道・下水道技術研修施設）

上下水道局では、長年にわたって培ってきた技術力やノウハウを次世代に継承するため、管路の維持管理等に関する実技を学ぶことができる研修施設の整備を進めています。

（左図は水道技術研修施設の完成イメージ。平成30年2月、太秦庁舎敷地内に完成予定）

#### 取組②

全ての職員が「仕事」でも「暮らし」でも活力や意欲に満ち、個性と能力が発揮できる、**京都ならではのオンリーワン組織**を目指します。

- ・ 「働き方改革」による「真のワーク・ライフ・バランス」の推進（業務改善や仕事の進め方の見直しによる業務の効率化、超過勤務の組織的管理など）
- ・ 改革・創造に向けた職場づくりと働きやすい職場環境の整備（業務改善の推進や若手職員が職場横断的に交流し活躍できる機会を通じた意欲向上の取組の推進）



<若手職員による職場横断的なプロジェクトについて>

#### 「MIYAKO PROJECT」

平成28年度に日本水道協会全国会議を京都市で開催するに当たり、全国会議を成功させるため、若手職員を中心に平成27年1月からスタートしたプロジェクトチームです。

全国会議後も、継続的に毎年の水道研究発表での質の向上の取組や水道事業のPR等に取り組んでいます。

蹴上浄水場一般公開での施設見学ツアーの様子



#### 「下水道事業PRプロジェクトチーム」

平成23年度から、柔軟な発想や機動力を生かして、下水道PRポスターの作成、街頭キャンペーン、各種イベントでの下水道事業PRブース出展等の積極的な広報活動を行っています。これまでに制作した下水道PRポスターは、国土交通大臣賞「循環のみち下水道賞」を受賞するなど、高い評価を受けています。

第6作目となる下水道PRポスター「下水道は眠らない」

## 方針② ささえる

# 50年後、100年後を見据えた経営を行い、将来にわたって京の水を支え続けます

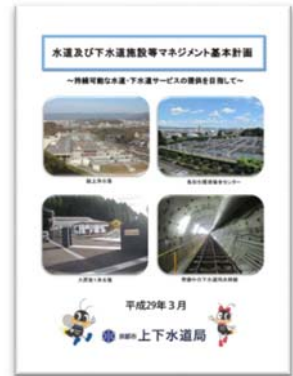
### 取組①

**施設マネジメントの実践や工事の品質向上**により、ライフサイクルコストの縮減を図り、限られた財源でも必要な事業を着実に推進します。

- ・ 「水道及び下水道施設等マネジメント基本計画」に基づき、施設情報の収集・充実を推進
- ・ 施工管理の強化及び工事目的物の品質向上に向けた、工事検査の手法改善及び体制強化



「水道及び下水道施設等マネジメント基本計画」(平成29年3月策定)限られた財源の中、計画的に施設等の維持修繕及び改築更新を行い、安全・安心な水道及び下水道事業を将来につなげるため、施設の長寿命化、コスト縮減や事業費の平準化を図る「施設マネジメント」の考え方や方針を体系化



### 取組②

公営企業としての責任を果たしつつ、**執行体制の効率化**や民間活力の導入を図り、生産性を向上させます。

- ・ 公民連携手法の導入やICTの活用等によるコスト縮減
- ・ 業務推進体制の効率化等による組織及び職員数の適正化
- ・ 市内南部エリアを所管する事業・防災拠点の整備に際しては、上下水道局の事業所や本庁機能の一体化等、効果的・効率的な組織、事業所等の再編を実施

### 取組③

長期的な視点に立ち、**大規模更新に備えた資金確保**に加え、保有資産の有効活用等による収入源の確保・創出を進め、財務体質を強化します。

- ・ 事業規模や経営状況に見合った適正な事業費や目指すべき企業債残高等、長期的な視点に立った財政目標の設定
- ・ 資産維持費の確保による企業債の発行抑制、大規模更新時期に備えた積立金の確保
- ・ 組織再編により生じる空き施設をはじめとする保有資産について、「京都駅東南部エリア活性化方針」等の活用方針を踏まえたオール京都市としての利活用を検討
- ・ 水需要の喚起や新たな増収策の検討・実施



文化庁地域文化創生本部  
(上下水道局旧東山営業所の有効活用)

### 取組④

継続的な経営改善を図りつつ、今後の経営環境を踏まえ、**世代間の公平性に重点を置いた適正な料金・使用料の体系や水準**について検討します。

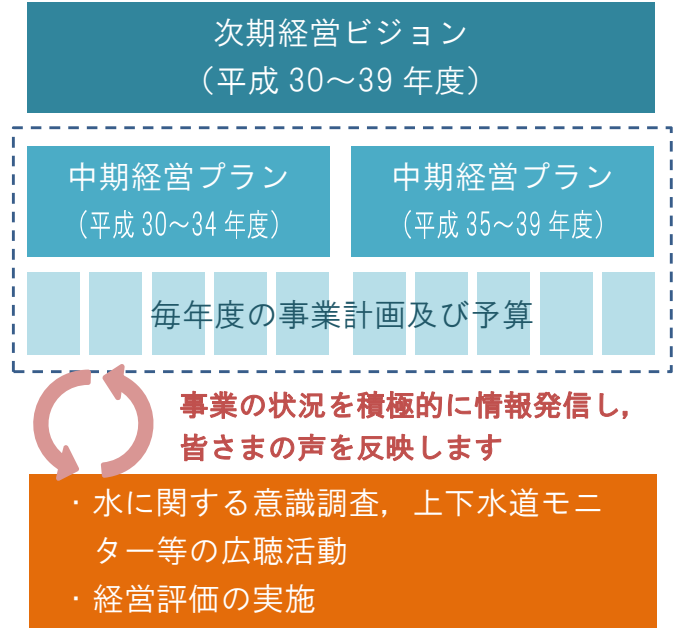
- ・ 新たな経営戦略の内容を踏まえた経営評価制度の充実
- ・ 厳しい経営環境の見通しの中にあっても、世代間の負担が公平なものとなるよう、外部有識者や市民の皆さまの声をお聴きしながら、料金・使用料体系・水準の在り方について検討



## 6 実施計画の策定と継続的な改善

次期経営ビジョンの実実施計画として、各取組の推進（年次計画）、経営の効率化、財政基盤の強化の3つの視点で構成する、前後期各5箇年の中期経営プランを策定します。

また、中期経営プランに基づいた各年度の事業推進に当たっては、経営評価や予算の見える化等により、事業の状況を積極的に情報発信するとともに、様々な広聴活動を通じて御意見を頂くことで、皆さまの御意見を事業へ反映し、継続的な改善を図ります。



## 7 今後の予定

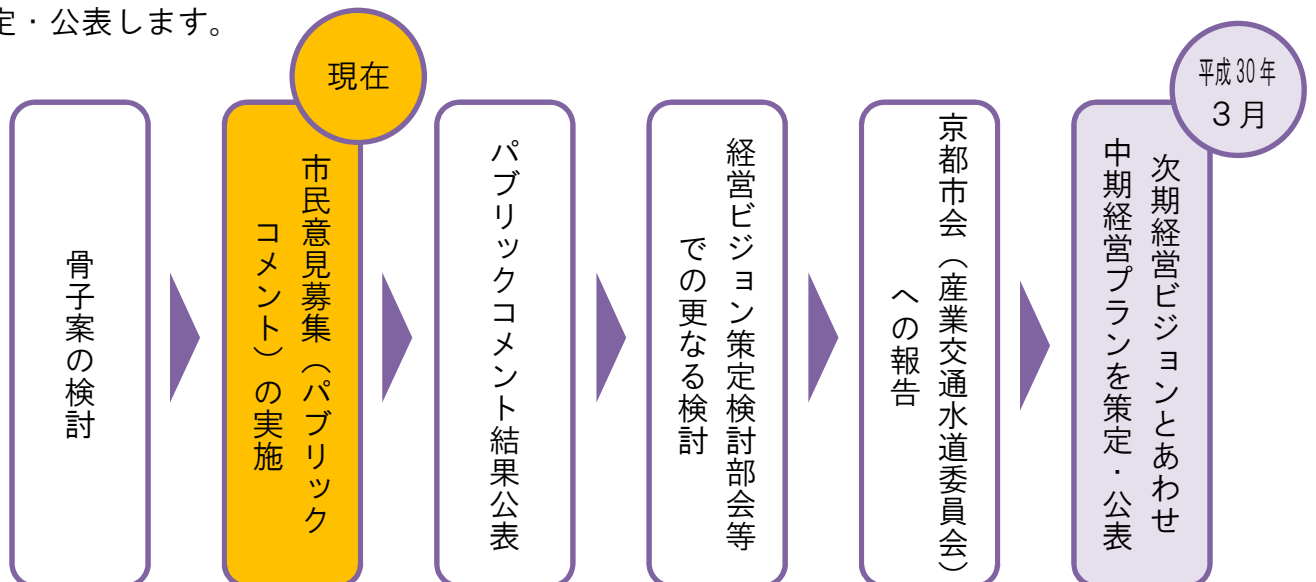
次期経営ビジョンの検討に当たって、本年3月に、京都市上下水道事業経営審議委員会の部会として、「経営ビジョン策定検討部会」を設置し、これまで全5回にわたり、有識者による議論を進めてきました。

今後、骨子案に対するこの度の市民意見募集（パブリックコメント）で皆さまから御意見を頂き、その結果を公表するとともに、同部会及び京都市会から御意見を頂きながら検討を進めます。

これらの検討を経て、平成30年3月に、前期5箇年の中期経営プランとともに、次期経営ビジョンを策定・公表します。



経営ビジョン策定検討部会  
(京都市上下水道事業経営審議委員会の部会)







## 8 御意見の募集内容及び応募方法

### (1) 募集内容

京都市上下水道局の次期経営ビジョン骨子案の内容についての御意見

- ① 基本理念や取組の構成について（6～8 ページ）
- ② 取組の方向性について（9～16 ページ）
- ③ その他

たくさんの御意見をお待ち  
しております！



### (2) 募集期間

平成 29 年 9 月 1 日（金）から 10 月 3 日（火）まで（当日消印有効）

### (3) 応募方法

郵送，FAX，持参又は電子メールで御応募下さい。

ホームページ「京都市情報館」の御意見送信フォームからも応募いただけます。

様式は自由ですが，必要に応じて「御意見記入用紙」をお使いください。

### (4) 提出先・問い合わせ先

京都市上下水道局総務部経営企画課

【住 所】 〒601-8004 京都市南区東九条東山王町12

【電 話】 075-672-3114

【FAX】 075-682-2711

【メール】 pb2017.keiei@suido.city.kyoto.lg.jp

### (5) その他

意見募集の結果は，ホームページ「京都市情報館」において，公表を予定していません。（個人情報とは公開しません。）

なお，お寄せいただいた御意見等に対する個別の回答は致しませんので，あらかじめ御了承ください。



パブコメくん

上下水道局の次期経営ビジョン骨子案（市民意見募集パンフレット）  
（平成 29 年 9 月発行）

京都市上下水道局 総務部経営企画課  
〒601-8004 京都市南区東九条東山王町 12 番地  
TEL 075-672-3114, FAX 075-682-2711

京の水道水  
世界最高水準

うるおいのしずく、あなたへ。



京都市上下水道局